



子宮が下がってくる 「子宮下垂」「子宮脱」

子宮脱とはヘルニア（脱腸のようなもの）の一種で女性特有の病態です。

子宮が下がって膣から出てくるため、歩行などに際して不快感や違和感を感じるのですが、1日立って歩いた夕方に症状が強くなる人が多くみられます。また膀胱脱を伴うケースも多く、「ちょっとしか出なくてすぐまたトイレに行きたくなる」タイプの頻尿や失禁などの症状が出ることもあります。同じような病態である痔を合併している人も多く見られます。下がる程度によって1度から3度に分かれますが、下がるの程度がわずかでも自覚症状が強い場合もあります。

原因は、解剖学的には骨盤底の筋肉のゆるみであるとか、子宮を支える帯状の靭帯という組織のゆるみであるとかいくつかの説があります。また、鉱山や農業などでの重労働や分娩の回数や処置の善し悪しが関係するという説（とはいえお産をしたことのない人でも起こることがあります）、筋肉が弱く胃下垂など「下がりやすい体質」が関係するという説などいろいろです。40歳代から少しずつ見られ、50歳代から増える原則的に高齢者の病気ですが、かつては若い人にも珍しくなかったそうですから、労働や分娩の関与もあなが

ち外れではないでしょう。

頻度について統計がないので分かりませんが、いろいろな地方の病院を回った経験から言うと、諏訪地方は非常に子宮脱の患者さんが多い印象があります。おそらくこの地方特有の冷えが関係あるのか、諏訪の女性は働き者なのではないかと思っています。

治療はごく軽いものであれば「骨盤底筋運動」や「失禁予防体操」で進行を防いだり、漢方薬「補中益気湯」が効果を示す例があります。下垂が強いものでは、ペッサリーというプラスチックやゴムでできた輪っか状の「つつかえ棒」を入れて矯正します。定期的に消毒に通う必要がありますが、これらで数年持たせることができます。

このような治療でうまくいかないような場合、手術が選択されます。いろいろな手術法がありますが、多くはお腹を切らない膣式手術です。

基本的に加齢現象の1つであり、放っておくと少しずつ進むものですから、心当たりのある人は症状が軽いうちに産婦人科を受診されるようにおすすめます。

【広報おかや 12月号】

